気仙沼にどのような専門学校があれば、地元に残れ、人を集められるか？

221 班　熊谷雅也　高橋杏奈　高須万悠　須藤千那

気仙沼市は、年々人口が減少しており、少子高齢化の真っただ中にあります。この状況を少しでも改善するために、私達はどうすれば気仙沼に人を集められるか考えました。１つの方法として、比較的リスクが小さい専門学校をつくり、人を集める方法を考えました。

1 序論

気仙沼の高校生は、高校卒業とともに進学するために気仙沼を離れてしまう人が多数いる。その人達のために気仙沼に大学を誘致するとなるとリスクが大きくなってしまう。そのため、比較的リスクが低い専門学校であれば地元に残れ、人を集められると考えた。

2 本論

根拠１　余っているものを使う

	Ｏ（機会）	Ｔ（脅威）
Ｓ（強み）	水産業が全国的に有名	過疎化により土地が余っている
Ｗ（弱み）	統合で余った校舎がある	進学のために気仙沼を離れる

表１　ＳＷＯＴ分析～気仙沼の現状～

表１ではＳＷＯＴ分析という方法で気仙沼の現状をまとめました。これによって、気仙沼の現状を把握することが出来ます。その中で私たちが注目したのは、過疎化により土地が余っている、という点と、少子化による小中高校の統合で校舎が余っている、という２つの点です。以上の２点より私たちはこの余った校舎を再利用できないか？と考えました。

根拠２　気仙沼で進学したいという人が多くない。

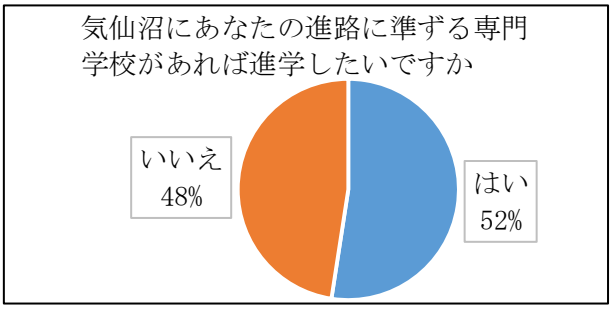

図１　アンケート結果

また、気仙沼高校１年生全員を対象に行ったアンケートでは、「気仙沼にあなたの進路に準ずる専門学校があれば進学したいですか？」という質問に対し、はい、いいえの二択でとったところ、はいが５２％、いいえが４８％とほぼ半々という結果になってしまいました。この結果から、若者向けの専門学校を気仙沼に作ったとしても、小規模になってしまうと考えました。

根拠３　老年人口が増加している

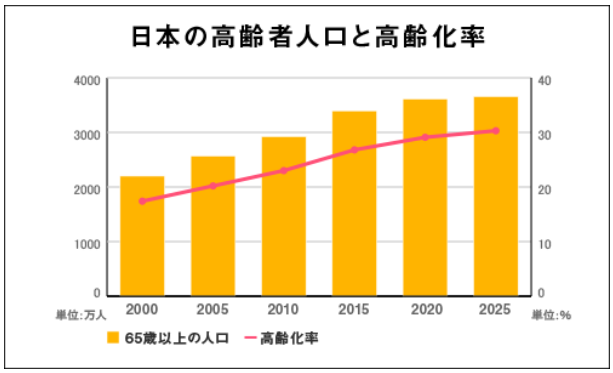

図２　日本の高齢者人口と高齢化率

図２からわかるとおり、年々日本の老年人口は増加しており、２０２５年には高齢化率が３０パーセントになると考えられています。このことから私たちは、増加していく高齢者をターゲットにできないかと考えました。

3 結論

余っている校舎等を利用し、専門学校を作ることは可能であるが、気仙沼が不便なため気仙沼で進学したいという人が少ないということから、地元に残る人のために学校を設立することは厳しい。

しかし、老年人口の増加より、高齢者の学び直しのための学校を設立することであれば、リスクは小さくなります。これからの学校は、社会人や高齢者などをターゲットにすればよい。

4 課題

今回の研究では、気仙沼の高齢者が学び直しをしたいかどうかの需要が調べられなかった。

また、地元から離れてしまう若者をどうすればいいかまでは考えられなかった。

5 参考文献

1) 日本の高齢者人口と高齢化比率（厚生労働省）